

菟原郡魚崎村伊東家文書概要

- 1: 文書群番号 088002
- 2: 文書群名 菟原郡魚崎村伊東家文書
- 3: 出所 伊東家
- 4: 家業・役職等 近世・近代：酒造業
- 5: 地名 摂津国菟原郡魚崎村／兵庫県菟原郡魚崎村のうち魚崎／兵庫県武庫郡魚崎村のうち魚崎／神戸市東灘区魚崎／神戸市東灘区魚崎西町ほか
- 6: 行政区分 幕府領／兵庫県第6区／魚崎村外3ヵ村戸長役場／魚崎村／神戸市
- 7: 歴史 魚崎村は住吉川河口兩岸にまたがった海岸部に位置した村である。明治22年（1889）に横屋村および西青木・野寄・田中の各飛錯地と合併し、町村制を施行した。明治29年以降は武庫郡に所属。明治24年の戸数418、人口は男1,079、女1,063。「魚崎町誌」によれば、明治中期の魚崎は商業が盛んで、農業は横屋村で行われていた。また魚崎では近世以来銘酒が産出され、明治期に入っても醸造所は39あった。日露戦争期以降宅地化が進み、消費都市化していったとされている。
- 8: 伝来 出所の所蔵を離れていた本文書群を、昭和63年（1988）6月4日に史料館が古書籍商より購入。平成15年（2003）1月に整理・目録作成を完了した。
- 9: 史料入手先 古書籍商
- 10: 点数 39点（目録件数39件）
- 11: 年代 嘉永2年（1849）～近代
- 12: 構造と内容 本文書群は近世後期～明治中期の魚崎村伊東家のもので、おもに酒造関係の文書と金融関係の文書で構成されている。「焼酎蒸留見込み石高届書」（目録番号13）や「干粕切手」（目録番号8-1～8-4）・「諸荷物渡し帳」（目録番号11）などから、伊東家は少なくとも明治中期頃まで酒粕を原料とする焼酎生産業を営んでいたことがわかる。
- 13: 関連史料 -
- 14: 閲覧条件 原本
- 15: 作成者 坂江 愛